

日本キリスト教会 大阪北教会

2017年8月20日(日)聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙 4章 1～6節

＜新共同訳＞4:1 そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、4:2 一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、4:3 平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。4:4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。4:5 主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、4:6 すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。

＜口語訳＞4:1 さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、4:2 できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、4:3 平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。4:4 からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。4:5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。4:6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。

＜文語訳＞4:1 されば主に在りて囚人たる我なんぢらに勧む。汝ら召されたる召に適ひて歩み、4:2 事毎に謙遜と柔和と寛容とを用ひ、愛をもて互に忍び 4:3 平和の繋のうちに勉めて御霊の賜ふ一致を守れ。4:4 體は一つ、御霊は一つなり。汝らが召にかかはる一つ望をもて召されたるが如し。4:5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、4:6 凡ての者の父なる神は一つなり。神は凡てのものの上に在し、凡てのものを貫き、凡てのものの中に在し給う。

＜新改訳＞4:1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。4:2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、4:3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。4:4 からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。4:5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。4:6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。

説教「霊による一致を保つように努めなさい」

◆私たちはこのエフェソ書を読み進んでまいりました。読んで、直ぐに分る箇所と、何を言っているのか良く分からない所があるのではないのでしょうか。私自身、ここまで読んで来まして、このように読めばよいのだと思うに至りました。私たちは聖書を「Old Testament」「New Testament」『旧約聖書』『新約聖書』と呼びます。「Testament」には遺言・証言・契約の意味があります。聖書を私自身への遺言として読む。そしてエフェソ書はその遺言に記された「相続財産」の解説・一覧として読む。その様な姿勢で、分るまで読む時、その時、聖書の無比の価値に気付かされるのではないのでしょうか。そして私たちは、無比なる幸い・祝福に与っていることを覚えるに至ります。そしてこの無比の全財産を惜しみなく、肉親に、友人に、知人に、全世界の全ての人々に譲渡したい思いに駆られるのです

◆パウロはここで自分を「囚人」、「主に結ばれて囚人となっている私」と言っています。「囚人」という言葉は、普通肯定的な意味で使われることはありません。「囚人」という言葉をこれ程輝かしく使った人がいるのでしょうか。普通ひとたび「罪人」「囚人」となれば、その人は終生、闇を抱えることとなります。しかし無比の輝きを持った「囚人」の状態があるのです。ここでパウロは、主なるキリストに囚われた状態を指しています。キリストに囚われている。キリストに結ばれている。キリストと一体とされている。そのような状態を「囚人」と言っているのです。その囚人パウロが勧めると言っているのです。従って囚人パウロの勧めは主イエス・キリストの御思いを代弁するものと言ってよいのであります。

◆先日来、聖歌の268番を皆で歌い、説教でも触れることが多いのですが、その1番の歌詞はこうです。

” 悲しみ尽きざる 浮世にありても 日々 主と歩めば 御国の心地す
ハレルヤ！ 罪 咎 消されしわが身は いづくにありても 御国の心地す “
これは正に「パウロの賛歌」と言っても良いのではないのでしょうか。

◆この「主に結ばれて囚人とされた」ということを1節の後半では「神に招かれた」と言い換えます。パウロは自分自身を「囚人」と言いましたが、それは神の恵みに与かるように招かれたのだと言い換えているのであります。正に、天の祝福、天の祝宴に、今・ここで招き入れられるのであります。

◆今日の説教題を、「霊による一致を保つように努めなさい」としました。

復活された主イエス・キリストは、聖霊として、霊的実在としてパウロに臨まれました。そして主は教会と一体であります。そしてパウロに聖霊として臨まれまたイエス・キリストはパウロと一体化することによって、パウロを再生させられたのです。従ってそれ以後のパウロは、十字架と復活の主・イエス・キリストと共に、今・ここで永遠の命、不滅の命を日々生きる者とされるのです。このような命こそ、私達キリスト者の命です。「霊による一致」とはイエス・キリストとの一致、キリストによる一致以外の何ものでもありません。私たちは「洗礼」によって、この命に生まれた者であります。

◆イエス様はヨハネによる福音書11章25節～26節でこのように言われます。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また生きていて、わたしを信じる者は、決して死ぬことはない」と。これこそ、御霊なるイエス様に捕えられ、イエス様を信じる者とされた私たちが、今・ここで生きる事を許されている「永遠の命」あります。

◆私たちキリスト者は、キリストに捕えられてキリストが神の独り子として、父なる神の全財産を相続する者とされていることを感謝しつつ、主イエス・キリストの使徒として、勧告するというのです。このような思いが囚人パウロ、囚人キリスト者パウロの思いです。従って、パウロの勧告は主イエス様ご自身の御言葉であり、御思いなのであります。

◆パウロはここで4つの徳目を挙げています。謙遜と柔和と寛容と愛です。これらの徳目は、イエス・キリストの内に満ちていて、溢れ出て来てパウロに注ぎ込まれたものであります。パウロは、キリストの謙遜と柔和と寛容と愛に満たされているのです。ただそれによって生かされているのであります。ここで「寛容」と訳されているものと原語では違うのですが、フィリピ書4章5節でパウロは「あなたがたの寛容をみんなの人に示しなさい」と勧めておりますが、この「寛容」という字は「エピエイケイア」で、「越えている+当然」という言葉です。パウロはキリストの内に満ちている「当然をはるかに越えている」無比なる恩寵、憐れみに捕えられたのです。

◆私達キリスト者の一番短い信仰告白は、「イエスは主なり」というものであります。その当時、「主」と仰がれた存在は、『ローマ皇帝』とイスラエルの神様「ヤハウエ」だけでした。カール・バルトの主著『教会教義学』は、

膨大なものですが、その最も主要なキリスト論の主題は、「僕にして主なるイエス・キリスト」と表現されており、次いで「主にして僕イエス・キリスト」が続きます。「主」としてのイエス様の無比なる権威は、イエス様が徹頭徹尾、僕として、奴隷として御自身を人間に捧げ尽くされた所にあるのであって、絶対の力を誇示するところに、その権威があるわけではないのです。イエス・キリストにおいては、その絶対、無比の「謙遜・柔和・寛容・愛」こそが、不滅の力を帯びているのであります。

◆そしてそこに平和と一致が生まれるのです。それは「霊による一致」です。外面的な一致ではなく、内面の霊的な一致、永遠の一致です。イエス・キリストご自身が、霊において我々の内に臨在される時、キリストの体なる教会は一つになって、キリストの使者・証人としての働きを為し得るのです。

◆4、5、6節で、パウロは、御霊と主イエス様と父なる神様について告白しています。いわゆる「三位一体」であられる神様についてであります。神様が三位一体であられます。御霊と御独り子イエス様と万物の源であられる父なる神様が、唯一の神様であられて、父・子・御霊として働かれて、私たちを永遠の祝福で、永遠に満たして下さっているという事実は、理屈による真理ではなくて、ただ啓示による、経験としての動かぬ事実であります。

◆人生、いつ何が起こるかわかりません。しかし、唯一の主なるイエス様に捕えられ、招かれ、召される時、それは永遠に崩れない主と共なる命に、永遠の命に、常に生かされることなのであります。この命を滅ぼすことができる存在はこの世にはありません。キリスト・イエスにおける神様の愛から、私たちを引き離し得るものはこの宇宙に存在しないのです。私達キリスト者の命は、それこそ、永遠に不滅です。私達は何という幸いに与かっている事でしょうか。畏れと感謝と讃美をもって主に仕え、伝えてまいりましょう！

◆お祈りいたします。

憐みに富み給う父、子、御霊なる神様。

私達はあなたの永遠の御愛に与っていることを新たに覚え感謝いたします。どうかあなたの謙遜と柔和と寛容と御愛がわたしたちのものであり、またすべての国の、すべての人々のものであることを誰もがわが事として受け止め、主イエス様による平安、平和の内に生き得るようにお導き下さい。この祈り、イエス様の御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。